



平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 8月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

今日で今年の梅雨も明けるといふ日、ふと東のベランダに出ると、綺麗な虹が空に掛かっていた。こんな風に端から端まで掛る虹は、自分にとっては珍しい。しかもよく見ると、外側にもうひとつ重の虹も掛かっている。

ここに引っ越して来た 28 年前は市庁舎のビルが高く聳えているのみだった。今はどれだか探さなければならぬほど、相対的に低くなっている。ハッキリ見えていた西武百貨店の 8 階建てなど、もう探しても見えない。もっとも、見つかっても既に阪急百貨店に変わっているが・・・人口は 35 万人くらいかな。

画像の右端奥の淀川を越えれば枚方市、左にうつすら見えるのは、よく勝負事に例えられる天王山。光秀と秀吉が戦ったところ。だからその奥が京都。南のベランダに出ると、奈良盆地の北の端、生駒山が見える。手前から順に JR 京都線、その向こうに阪急京都線、更にその向こうには、東海道新幹線の走る姿が見え

る。少し視線を西に移すと、大阪梅田のビル群が見える。ついでに、もっと右に視線を振ると万博公園の観覧車が見え、その奥が伊丹空港。

夜ともなると、飛行機が生駒山辺りに現れて、梅田の手前を通り、徐々に高度を下げて降りていく。ラッシュの時間帯になると 4 分おきくらいに並ぶ。だから 3 機くらいはそのルートにしばらく列を為す。その間に離陸した機は何処かに飛んで行くものもあれば、こちらの頭上目掛けて飛んで来る機もある。

よく言ったもので、『祇園祭』になると、関西の梅雨は明ける。空がスッキリすると、梅雨の間飛んでいた鳥が、こんなに低く飛んでいたかと思うほど、空は高くなる。だけど夏の空は実態がハッキリしない。秋になると空は空として存在を明らかにする。

その空の中に月があり、もっと遠くに太陽がある。中澤佐江子が『木』『火』『土』『金』『水』の存在から受ける身体の影響を中医学に依って纏め、毎月のテーマを決め、如何にそれぞれの時期を過ごせば良いのかを **Video** にまとめて、みなさんに配信している。なかなかの秀作で、縦型・横型、また、店のエントランス用に 5 分程度の縮小版まで作成している。

最近、MARVEL シリーズに嵌まり、時間を費やして、娘と順に観ている。これは、太陽系どころか銀河系も飛び出して、宇宙の果てまで及んでいる。基本はヒーローものだが、なかなか手が込んでいて、科学的に面白いというより、物語の構成が入り組ませてあり、細かな場面の成り立ちの解明に興味が行くように構成されている。

会社の吉田麻衣がCPの壁紙に設定しているのを、ずっと『エイトマン』だと思っていた。ようやくそれが『アイアンマン』だと判明した。迂闊に振って話しが長くなるのも困るので、気付いてなかった、で済ませた。

銀河の彼方から、1mの10億分の1のナノ以下の量子サイズまで、話しが及んでいる。アントマンという刑務所上がりのヒーローが、このサイズまで小さくなる事が出来る設定で、新しい科学のトレンドも取り入れての話したが、なかなか量子論の核心にまでは迫れない。

迫れないのは私も同様だが、20歳過ぎの頃から、眼に見える範囲は世界の成り立ちのホンの一部でしかないと思って来た。大部分は眼には見えない事柄の要因で構成されていると思えたのだ。俗にいう科学は研究という行為で、その不可思議な事象を解明し、再現性の理論化に成功した集積に過ぎない。事によってはその実用化で幸せっぽくもなれるし、それがなくても幸せに暮らせるようにも思う。ただ知りたいと思う知的好奇心は飽くことがなく、いつも想像をかきたてられる。

量子の存在は、その不規則・不確定さの発見によって、世界は過去しか定めることが出来ない領域であることを、あろうことか科学は証明してしまった。だけど考えてみれば、誰が誰と結婚して落ち着いた暮らしをするか誰も想像がつかないし、誰と誰が離婚するなども、本人ですら分からない。私たち人間も量子の上になり立っているので、根本的には同じ状況下にいる。

そもそもは、当社で『未病とは何か』を中澤が探索を始めた時、フリーラジカル(不対電子)という存在を、明らかにした。15年ほど前の話しである。磁場の良さとは、この不対電子が少ない場の事を云うのではないかと私は想像している。生体エネルギーも O_リング

テストも根本の原理はここではないかと思うが短絡過ぎるかな。

ゼロを1に変える能力と、1を10に変える能力は別物の様に思う。数字にしてしまうと、ゼロは何も無い状態のように錯覚するが、それは数学者がプラスとマイナスの境界を便宜上設定しただけだろう。実態は形を為していないだけで、そこには無限のエネルギーが存在している。そう考えれば、般若心経で言う『無』の存在は見事に言い表している。無は『有』を生むが、その逆はあり得ない。それは質量保存の法則に似ていて、田植えをして、稲刈りをすると田の土が10cmほど下がる、と自然食品の行商をしていた時、農家の爺さんが言っていた。

つまり大きくは、私たちは土と水の化身だという訳だ。『色不異空 空不異色 色即是空 空即是色』といった何回半紙に写したか分からない。ハンクとエイヴァの父の、量子エネルギー実験に失敗した時、居合わせた彼女は、自身の身体が原子の分離と結合が不安定化した状態に、後遺症として陥る。その方が便利といえば便利だろうが、痛みが伴うとなると、苦しい状態になるだろう。色は空と異ならず、空は即ち色也となれば、自然界にゼロが存在する事は通常あり得ないと分かる。

その前提に立つと、ドクター・ストレンジの魔術もあながち荒唐無稽とは言い難い。エンシェント ワンの空間移動によって、エベレストの極寒地に取り残された修行初めのストレンジも慌てただろう。ところが生きるか死ぬかになると、とんでもない力が出て、自らドアを作って無事帰還する。元々持っていないと思えば力が出ることは無いが、自分を信じる事が出来れば、持っている事に気が付き『空』を『色』に変えることは出来る。

世界とは、時と空間の産物。この漫画は時の成り立ちにまで及んでいる。時の概念は Parallel world の根幹をなす。漫画やこの世の不思議に導かれて生きるのも、捨てがたい魅力がある。